

平成29年度いしかわ道徳教育推進事業  
道徳教育推進校 完了報告書

学校名： 津幡町立条南小学校

校長名： 架谷 桂二

1 取組の成果のポイント

- 授業のねらいを明確にした上で、ゴールを想定し授業改善を図ったことで児童に最も考えさせたいことを中心に考えを深められるようになった。
- 授業において、発問や言語活動の工夫をすることで、児童の意欲が増し、主体的に考えたり多様な考えを出し合ったりするようになった。
- 校内研修を充実させることで、教職員の意識が高まり、教材研究や授業研究等に意欲的に取り組み、多様な手立てを工夫し共有することができた。
- 道徳の公開授業や「道徳だより」の発行をすることで、学校の取組や教職員の願い、授業の様子を発信し、家庭や地域との連携を図ることができた。

2 研究主題

自ら学び考える子をめざして  
～自他を見つめ話し合う授業を通して～

3 研究のねらい

本校児童は、明るく元気に行動する児童が多い。また、素直で、課題に対しても真面目に取り組み進んで参加しようとする児童も増えてきた。その一方で、学習意欲や行動に個人差があり、自分から課題を持って取り組む意識は弱い。さらに、よりよい自分を求めようとしたり自分で自分を伸ばそうとしたりする向上心が弱いという点も明らかになった。これまで小さな成功体験を積み重ねてきたが、まだ意欲につながっていない部分もある。また、他の人への関心があまりなく相手意識が薄いという実態が見られる。他と関わって学ぶ必要感を感じることができず、学ぶ喜びを実感できていないことも意欲や向上心に関係していると思われる。

そこで、今年度は、主として「自分自身に関わること」と「他の人との関わりに関すること」についての道徳性を養い、道徳的実践力を育成することで、自分を見つめ、他と関わり合っよりよく生きようとする態度を育てていきたいと考え、道徳を中心として研究を進めていくこととした。副題である『自他を見つめ話し合う』とは、「自分を知り相手に関心を持ち、お互いに認め高め合いながら話し合う」姿と考える。そのような姿を求めて、他との関わりの中で自己の考えが変容するような授業展開の工夫に取り組むことで、道徳性を養い、主題である「自ら学び考える子」の育成につながると考える。

4 研究の概要及び特色

(1) 「授業改善」を通して

①ねらいに迫るための発問の工夫

今年度の道徳授業においては、ねらいとなるゴールを明確にした上で、そこにたどり着くように発問を考えるよう取り組んできた。具体的には、「問題解決的な発問（なぜ〇〇は～だったのか等）」「自我関与中心の発問（どうして主人公は・・・、自分だったら等）」「自由な思考を促す発問（どうしてそう思うの？等）」を取り入れ、多面的に考えられる場面を選んだり、発問の内容や仕方を吟味したりしてきた。

「問題解決的な発問」をすることで、道徳的な問題について考えることを通して、道徳的価値の理解を深めたり、理解できるが実現できない弱さに気付いたりすることができた。「自我関与中心の発問」を

することで、自分の事のように考え、多様な意見を出させることができた。また、ねらいに向かって考えを深めるために、実態に合わせて問い返しや揺さぶりの発問を工夫した。


## ②多様な考えにふれ、自分の考えを深めるための手立ての工夫

多様な考えがでるように様々な学習形態や表現活動を工夫してきた。また、考えを深めるための聞き合い話し合いも大切にしながら授業を行ってきた。

### 【導入の工夫】

- ・教材提示で、板書にパネルシアターのように教材を読みながら挿絵を貼ったり、大切な言葉や文章を短冊に書いたりし、一目で教材の内容が理解できるようにした。


**挿絵 キーワードの言葉 黒板シアター**



1年 友達となかよくしよう 2-(3)

**低～高学年  
話し合いの時に  
視点がしぼられる  
考えやすいと  
効果的☆**

- ・映像や、写真など視聴覚教材を多く取り入れたことで、自分の生活と教材を結びつけ、イメージを明確に持たせることができ、ねらいとする価値について考えることに役立った。



**導入の工夫**

**写真 挿絵  
動画 音**

**意欲 内容把握  
雰囲気作り**

3年 自然を守る 3-(2)

### 【学習形態の工夫】

#### ペア・グループ学習

- ・中心発問の際に自分の考えを広めることや深めること、新たな考えを知ることを目的としてグループ交流を取り入れた。目的を明確にして交流したことで、多様な考えにふれねらいに迫ることにつながった。

### 【表現活動】

#### 役割演技・動作化

- ・中心発問で考えをもつときに、取り入れた。感情移入しながら、登場人物の気持ちに寄り添って自由に考えを表現する姿が見られた。

#### 道徳ノート・ワークシート・手紙

- ・書くことで、自分の考えを整理したり立場をはっきりさせたりして話し合いに参加した。
- ・ノートを継続して活用することで、以前の自分の考えと比べて考えることができた。



**役割演技・動作化  
体験的に ペアシートで**

**実際にやってみることで  
想像をふくらませることが  
できる**

1年 心をつなぐあいさつ 2-(1)

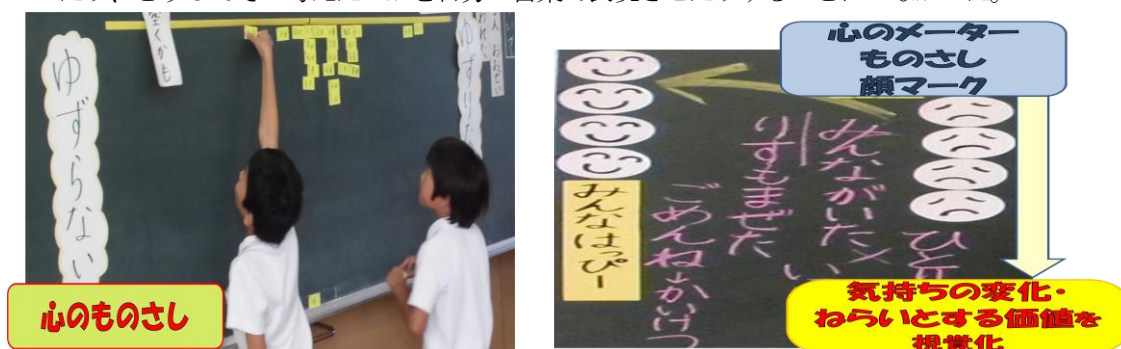
## 【板書の工夫】

### ネームプレートの活用

- ・ネームプレートで自分の立場をはっきりさせたことで、自分の考えを明確にでき、児童も教師も全体の考えを俯瞰することができた。さらに、グループ活動ではどのグループにも立場の違う児童が入るようにしたことで、聞き手は考えが同じなのかどう違うのか意欲をもって聞き、多様な考えにふれることができた。

### 心のメーター・ものさし・顔マーク

- ・登場人物の気持ちの変化を顔の表情マークで表した。気持ちの変化が分かりやすく、登場人物の状況をつかむのに役立った。また、心のメーター等で自分の考えを可視化したことで、互いの考えが分かったり、どうしてその考えたのかを自分の言葉で表現させたりすることにつながった。



### 板書の構造化

- ・板書で視覚的に対比させることで、道徳的価値について考えさせることができた。



## (2) 校内研修の充実

### ①授業改善に向けての研修

道徳の授業づくりについて指導主事を招いて研修会をもった。ねらいとする内容項目について明確な考えをもち、児童の実態と合わせ、本時で学ばせたいことを明確にする大切さを学ぶことができた。常にねらいを意識することで中心発問や深めの発問がぶれず、児童の思考の流れも途切れず進めていけることも学んだ。また、教材提示の仕方や発問のつくり方、授業展開の工夫における様々な方法についても学び、それらを活かして、学年で教材研究をしたり指導案づくりをしたりしてきた。

希望者によるOJT研修では、模擬授業において、中心発問までの授業の流れや予想される児童の反応などを出し合い、深めの発問を吟味することができた。

### ②評価についての研修

道徳の評価の仕方について、資料をもとに評価の意義や基本的な考え方を研修した。個人内評価で「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」という2つの視点を確認した。また、何をどのように評価するのかについては、学習状況や道徳性に関わる成長の様子を、発言や感想、ノート等を通して評価するというを確認した。

どのように書くかについては、言動や変容を積み重ねていく過程を見取り、児童が授業中やその後の生活場面でどう成長、変容してきたかを書くことを共通理解し、一学期の道徳ノートを参考にしながら評価

の文面を考えてみた。

実際に書いてみて交流したところ課題も見つかり、学び方の変容は見つけやすいが道徳性に関わる成長や変容は見つけにくく、文章にするのが難しいと感じられた。「変容」や「価値に関して学んだこと」などを「授業のどの場面で書かせるのか」、「毎時間の授業でどのような見取りをしていくのか」を考えていく必要があることがわかった。そのことを考えながら授業をすることを共通理解した。

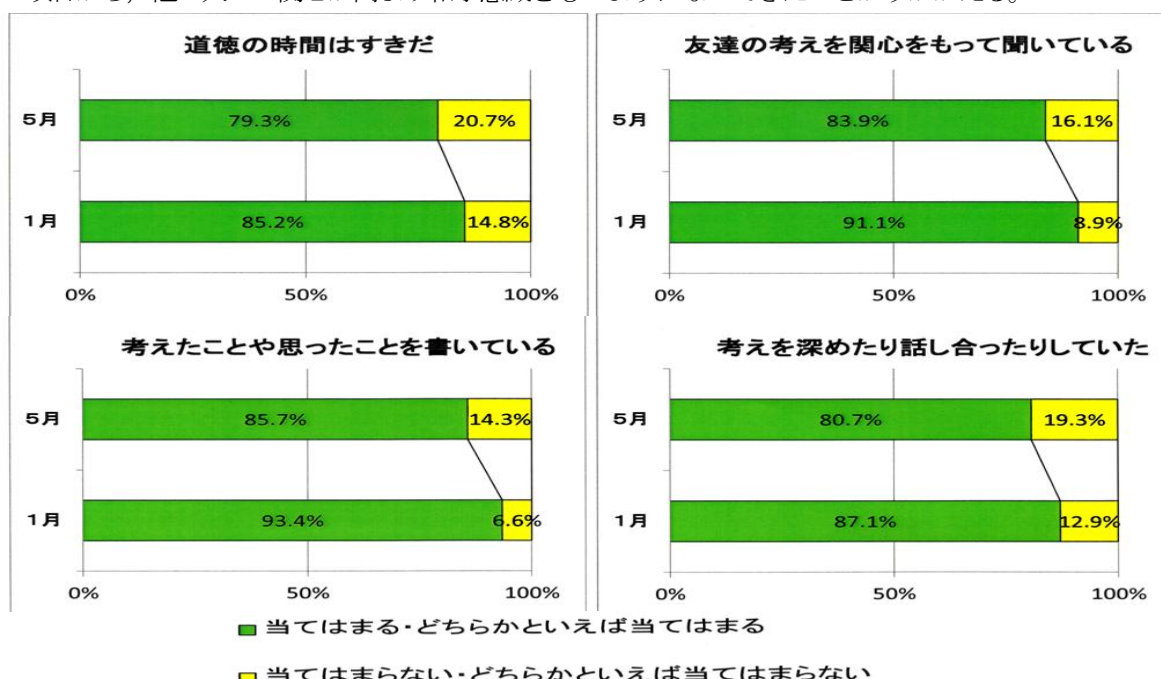
### (3) 家庭や地域社会との連携

授業参観や学校公開において、家庭や地域の方に道徳教育についての理解を求めるために、全クラスが道徳の授業を公開してきた。また、道徳便り（保護者・教員向け）を発行し、学校の取り組みや教職員の願い、授業の様子を発信し、保護者の感想を紹介することを通して家庭や地域との連携を図ってきた。家庭や地域社会との連携を図り、各学年1回以上ゲストティーチャーを招聘した授業を実践してきた。

## 5 研究の評価

### (1) 研究の成果

道徳アンケートから、「道徳の時間がすきだ」「考えを書いている」「考えを深めたり話し合ったりしていた」の項目の数値に伸びが見られ、学ぶ意欲の向上につながった。また、「関心をもって聞いている」の項目から、他の人への関心が高まり相手意識をもつようになってきたことがうかがえる。



教師の授業改善の意識が高まり、教材研究や授業の組み立て方に変化が見られた。具体的には、ねらいを明確にしゴールの姿を考えたうえで、中心発問や深めの発問を設定したり、導入・学習形態・板書の工夫をすることで、児童の多様な考えを引き出したり、主体的な学びにつなげることができた。

### (2) 今後の課題と予定している取組

ねらいにせまるために、主に中心発問や深めの発問を考え設定してきたが、そこにむかっていくための補助発問や問い返しを、もっと吟味したり精選したりする必要がある。

多様な考えにふれ、自分の考えを深めるための話し合いに取り組んできたが、さらにその話し合いを充実させることが課題と考える。今後の取り組みとしては、構造的な板書や、話し合い活動における児童の関わり方や教師の発話について考えていく。また、的確な評価を行うために、授業での児童の変容の見取りやその生かし方について研究を進めていきたい。

## 6 参照できるホームページアドレス

<http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~jounae/NC2/htdocs/>